


①事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立入船小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	児童の反応
7 【国語】	教室	『季節の言葉を味わおう』・「枕草子」	「冬」の場面に出てくる「炭」に関心をもった。	
3 【総合】	校庭 教室	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある炭が、どのような使われ方をしているかを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家の米びつに使っている炭や、部屋に置いてある炭に関心を持ち始めた。木でできた炭と竹でできた炭があることに気付く。 七夕で他学年が短冊用の竹を切っているのを見て、学校の森にたくさん生えている竹に着目した。 	学校の森にたくさん生えている竹を間伐して、竹炭を作ってみたいという思いをもった。
21 【総合】 4 【社会】	校庭 教室	<p>『結成！炭炭クラブつくり隊プロジェクト』</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の森にたくさん生えている竹を間伐し、それを使って竹炭を作るという活動計画を立てる。 森林資源を守り育てる人々の工夫について捉える。 <p>『探ろう！竹炭のひみつ』</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹炭の作り方や効果について調べる。 竹炭づくりの専門家の方にアドバイスをいただきながら、竹炭を作る。 	 	<p>竹の節に対してどのように切ったらやりやすいかを様々に試しながら取り組んでいた。</p> <p>竹をどうすれば竹炭にできるかを調べ、活動を計画した。活動の中では、煙の色を注意深く見ることなど専門家の方にアドバイスいただいたことをもとに、質のよい竹炭を作ることを心がけた。</p> <p>できあがった竹炭を見て、小さな竹炭も大切に全て活用したいと、隅々まで集めた。</p>

<p>17 【総合】</p>	<p>校庭 教室</p>	<p>『森の竹炭を活用しよう』</p> <ul style="list-style-type: none"> • 作った竹炭を活用する。 • 竹炭の効果をより生かせる活用方法を考える。 • 竹炭の効果や活用法を研究していらっしゃるお店の方にアドバイスをいただく。 • 竹炭の置物を作ったり、七輪で竹炭を使ったりする。 		<p>作った竹炭をどのように活用すれば、より竹炭のよさが出せるかという考えをもってきた。インテリアとして部屋に置いたり七輪で実際に使ったりしたいと思うようになった。自分たちの作ったものや使い方について、竹炭専門店の方にアドバイスをいただく中で、奥の深い竹炭についてもっと知りたいという意識が高まっていた。</p>
<p>20 【総合】</p>	<p>教室</p>	<p>『広げよう！森の竹炭』</p> <ul style="list-style-type: none"> • 交流会を開き、地域の方々に、竹炭の魅力を伝える。 • 自分たちの活動と学びを振り返る。 		<p>身近にある自然。その自然で作った竹炭の魅力を、地域の方々にも広めたいという思いをもった。交流会では、地域の方々からたくさん意見が出、竹炭について自分たちもさらに考える場となった。</p>

②学習指導案

単元名	『炭炭クラブづくり隊プロジェクト』 (全72時間 国語7時間 社会4時間 総合的な学習の時間61時間)
単元目標	学校の竹を使って竹炭を作る活動を通して、竹と共に生活をしてきた先人の知恵や竹の価値に気づき、そのよさを生かして生活するために自分たちにできることは何かを考え、地域の一員として実践していこうとすることができる。
本時目標 (51/72)	これまでの活動や学んだことをもとに、竹炭の魅力をどのように伝えればよいかを考えることで、竹炭のよさを改めて感じ、地域の方々にも明確に伝えるための方法を具体的に見出す。
準備品 実施場所等	テレビ・パソコン 教室

学習の流れ (51/70)

学習活動	教師の指導・支援	評価
○本時のめあてを確認する。		
どのような交流会にすれば、森の竹炭の魅力が伝わるだろうか。		
○どのような方法で竹炭の魅力を伝えるかを発表し合う。 ・竹炭の効果の実験演示 ・竹炭の活用法の紹介 ・自分たちの活動の目的や方針 ・これまでの活動報告 ・学校の森について ○出た方法について、互いに意見を出し合う。 ・よいところ ・改善点 ○皆の意見や以前お店の方にいただいたご意見をもとに、次時の活動の計画を立てる。 ・改善点をふまえて、どのようなものにするか	・これまで体験したり学んだりしてきたことを具体的に振り替えられるよう、活動の写真や経過図を掲示しておく。 ・「竹炭の魅力が伝わるかどうか」と常に照らし合わせて発言するよう促す。 ・皆の意見を聞くことで、自分の考えを深めるよりどころとなるように声かけをする。	評：目指す内容になっているかどうか話し合う中で、互いの意見をすり寄せ、よりよい方法を考える。

③実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

子どもたちが、自分たちが関わっている『竹』は、自分たちだけではなく、先人も、そして周りの大人の方々も関わっていらっしゃる貴重なものなのだと感じることができるように、自分たちだけの活動にならないよう心掛けました。

(2) 実施にあたり苦労した点

森の竹を間伐する意味というのを、子どもたちの実感として捉えられるようにするのが難しかったです。価値の一つと考えられる、間伐した竹を活用するというのを、実際の体験を通して感じられるようにしたかったです。

(3) 児童の反応

単元の初めは、自分たちの力で竹を伐採するところから始め、普段なら大人の人にやってもらうところを、『自分たちで』ということがとても楽しいようでした。しかし、活動を進めていくうちに、自分たちだけでやっている時よりも、専門家の方や専門店の方など、竹と共に生きていらっしゃる方々に関わらせていただき、そして地域の方々と接し始めてからのほうが、より深い発言、積極的な行動が出ていました。

(4) 担当教諭の変化

竹馬づくりや竹トンボづくりは経験したことがあり、自分では少しは竹の価値に気付いているつもりでしたが、竹炭に出合ったことで、より深い価値に気付くことができました。竹と共に生活していらっしゃる専門家や専門店の方に関わらせていただいたことが本当にありがたかったです。

(5) 今後の課題と取り組み

子どもたちが、今回の活動を通して学んだことを、次へ生かしていくことができるかどうか、継続的に見ていく必要があるのですが、学年やクラスが変わり、担任も変わっていく中で、一人ひとりの学びをどう見ていくかが課題です。

職員同士が互いに授業について検討したり、密に子どもの姿を伝え合ったりしていくことに今後も取り組んでいきます。